

## 2025（令和7）年度「数理・データサイエンス・AIリテラシー教育プログラム」

### に対する外部評価 議事録

日 時： 2026年3月6日（金）14:00～14:45

評価者： 非公開（富山市内小学校 校長）

学内関係者： 現代社会学部 教授 新森昭宏（議事録）、同 教授 越智士郎、  
子ども育成学部 教授 萩中泰弘、学務課(教務担当) 課長 市六和歌子

#### 説明資料：

- 富山国際大学における「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」について
- リテラシー教育プログラムのシラバス(情報処理演習、情報リテラシー)

#### 趣旨と教育内容説明：

- 新森が、富山国際大学で実施している「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」について教育界の立場からご意見を頂きたいとの趣旨説明を行った。
  - 教育内容・方向性が社会の方向性・ニーズに合致しているかどうか
  - 教育の立場から見て、より強化すべき内容はどこか
  - その他、全般的に改善すべきところがあるか、等々
- その後、子ども育成学部のリテラシー教育プログラムの対象科目である情報処理演習について萩中教授が、情報リテラシーについて越智教授がそれぞれ授業内容を説明した。

#### 評価者からの意見：

- 情報処理演習はWindowsが基本となっているとのことだが、富山市はGoogleを使っているので、可能であればOSの違いという話やクラウドということについても触れられていると良い。
- 情報リテラシーの教科書の「教養としてのデータサイエンス」は先ほど読ませて頂いたが、読み物として面白い。学生にとってExcel操作が印象に残っているとのことだが、その前の部分に書かれているデータ処理のところはレベルが高い話であり、学生がついていけるのか、その必要性を感じられるのが疑問である。
- 本校には新卒で富山国際大学出身の新規採用教員が来ているので、その人に「現場に来て困ったことや違和感を抱いたことがあるか」との質問をしたところ、「Excelの使い方ですごく戸惑いました」とのことだった。教育現場でのExcelの使い方は独特であり、たとえば、一人一人の所見を書いたり、素点をまとめて成績処理をしたりすることが多い。関数的には難しいことは無いが、入力したり、リンクをかけたりするところが不慣れなのかと思う。
- 動画については、実は教育現場ではあまり扱っていないというのが正直なところである。総合的な学習で何かを紹介するというときには動画を作ることはあるが、動画を作るのには時間がかかるためである。それよりも、Excelの取り組みの回数がもう少し多くても良いのではないか。
- プログラミングを取り上げて頂いてすごくありがたいと思うが、実は学校現場ではまだまだあまり取り組まれていない。そもそも、プログラミング言語を学ぶ場ではなく、プログラミング的な思考を

学ぶ場だという言い方をしている。順序だてて考えるとか、反復とか、デバッグとかの考え方を知るといふことのウェイトが大きいと考えるので、演習の中でもそのようなことに触れて頂けると良いと思う。

- 「教養としてのデータサイエンス」の教科書ではデータ利活用のストーリーが示されているのでそれはそれで良いが、教育現場でどのようなデータの利活用がされているかについて触れられると良いと思う。特に、ダッシュボードという機能、つまり、いろいろなデータを集めてきて1枚で見えるようにするという話があり、富山市でもクラウド化の次の段階としてダッシュボードを実装するという構想がある。

- AIの活用については、文部科学省から「生成AI活用に関するガイドライン」が出ている。「教養としてのデータサイエンス」の140ページに書かれているように、「生成AIの課題を理解してから現場で使いましょう」ということになっている。このような話をする際に、学校現場においては文部科学省のガイドラインがあるという話もして頂けると良いと思う。

- SARTRAS（一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会）とか著作権保護とかの話も教育現場で最近大きな話題になっているので、そのような話も「教養としてのデータサイエンス」の第3章の説明の際に触れて頂けると、より現場に直結した話になると思う。

- 文部科学省から各種のガイドラインや手引きが出ているが、現場に出た若い教員がそれらを読んでいる暇がないというのが実情ではないか。必要になったら読むかもしれないが、どこにどのようなものがあるかということもわかっていないかもしれない。大学で学んでいるときに、文部科学省からどのようなガイドラインや手引きが出ているということを紹介してもらえれば、現場で困ったときにそれらを参照すれば良いということがわかるので、先生方が自信をもって現場に来ることができるのではないかと思う。

- 次期学習指導要領の議論が現在進んでおり、その中では情報活用能力という言葉が大きく取り上げられて柱の一つになっている。情報処理演習と情報リテラシーの両方に関わってくると思うが、現場とつなげた活用ということを意識して頂けると良いと思う。

- 学校での学び方が変わってきていると感じている。一斉一律の授業だけではなく、探究的な学びということで、皆が端末を持って広がって学ぶとか、他の人が何をしているかを理解しつつ学びあうという風景が広がっている。こうした学び方は学生も経験していない学び方なので、そのような学び方の実践事例を知らないといけない。私達も春日井市のような先進的なところに視察に行つて学んでいるところである。「学び方が変わってきているということについての学び」が盛り込まれていると、より現場に近くなると思う。

## 質疑応答

- 子供たちが使っているのはパソコンか、タブレットか？

➤ 県内の市町村によって採用しているものが異なる。タブレットタイプのものであれば、パソコンタイプのものもある。GIGAスクール構想の第二期で、富山市はコンバーチブル型のChromebookを採用している。

- 総合的な学習で写真などの画像を扱うことはあるか？

➤ 画像をスライドに貼って発表するということは日常的に実施されている。動画に関しては、

理科の実験を撮影して後で見直すということは実施しているが、作品を作るということまではあまりされていない。委員会活動で、発表などを動画で校内放送に流すということはされているが、写真を扱うことの方が多い。

- 大学では Windows とそこで動作する Word/Excel/PowerPoint を教えているが、小学校で Chromebook が使われているのであれば、大学もそちらに移行すべきという考え方もあり得るが、これについてのご意見は？

➤ 本校の初任者に聞いたところ、Word と Google ドキュメント、Excel と Google スプレッドシートの違いというよりも、PowerPoint と Google スライドの違いが大きいと感じたとのことであった。

- 先生方は日常業務で、Chromebook を使われているのか？

➤ 今年度のネットワーク更改により Google クラウドを主に使うようになったが、これまでの業務との関係もあり現在は Microsoft365 を契約して Word/Excel を使えるようにしてある。Word/Excel を使っている先生が多い。子どもたちと同様に Google ドキュメントと Google スプレッドシートを使っている先生も一部にはいるので、結局、二本立てになっている。方向性としては、予算の都合もあるので、Google に全部寄せていった方が良いと考えているが、少し先の話になりそうである。

以上